

いずもぎ

議会だより



議長杯ゲートボール大会(始球式)

第68号

2010

平成22年8月5日

6月定例会

もくじ

・臨時会のあらまし	2
・定例会のあらまし	3
・一般質問	4～6
・政務調査報告	7
・町民の声「出雲崎の街並みについて」	8

発行/出雲崎町議会
責任者/議長 中川正弘
編集/議会報特別委員会

〒949-4392
新潟県三島郡出雲崎町大字川西140番地
TEL. 0258(78)3112 FAX. 0258(41)7322

◆ 5月臨時会のあらまし ◆

(会期 5月25日 1日間)

* 臨時会で決まった補正予算 *

会 計	補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計 (第12号)	1億2,442万4千円	38億1,533万7千円
一 般 会 計 (第1号)	86万1千円	32億2,686万1千円

平成21年度 一般会計補正予算(第12号)

おもな歳出 (△印は減額)

- ・ 財政調整基金積立金追加…………… 1億3,000万円
- ・ 財政調整基金利子積立金追加…………… 27万6千円
- ・ 除雪委託料減……………△400万円

平成22年度 一般会計補正予算(第1号)

おもな歳出

- ・ スクールガードパトロール車借上料…………… 49万1千円
- ・ 改善センター施設修繕料追加(八手)…………… 18万6千円

5月臨時会は、議案5件が提出され、慎重審議の結果、原案のとおり承認・同意しました。

人 事 案 件

副町長の選任

小 林 忠 敏 氏
(大字山谷)

可決した条例改正など

- ◆ 出雲崎町税条例の一部改正
- ◆ 出雲崎町国民健康保険税条例の一部改正
 - ・ 地方税法等の一部を改正する法律の施行されることに伴うもの。

議会のつどい

(主なもの)
(平成22年4月～6月)

29	11	9	8	7	6	28	25	5	4
議会報特別委員会	全員協議会	定例会最終日	議会運営委員会	予算審査特別委員会	定例会2日目(一般質問)	総務文教常任委員会	社会産業常任委員会	議会報特別委員会	議会運営委員会
				6月議会定例会招集日	議会運営委員会	議会運営委員会	第30回町議会広報研修会(新潟市)	5月臨時会	全員協議会
								第35回町議会議長・副議長研修会(東京都)	第35回町議会議長・副議長研修会

◆ 定例会のあらまし ◆

(会期 6月7日から 5日間
6月11日まで)

* 6月定例会で決まった補正予算 *

会 計	補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計 (第2号)	5,403万9千円	32億8,090万円
特別会計 国民健康保険事業 (第1号)	177万2千円	5億3,277万2千円

一般会計補正予算 (第2号)

おもな歳出

- ・ 更正医療給付費追加 (障害者) 408万6千円
- ・ 延長保育事業補助金 980万円
- ・ 薬師堂地区農村公園防護柵設置工事 104万7千円
- ・ 県単林道工事 (柿木滝谷線ほか2路線) 1,850万円
- ・ 街なみ環境整備費 (用地買収費) 追加 215万円

定例会は、議会報告4件、町報告1件、平成22年度一般会計・特別会計補正予算並びに条例の制定・一部改正など議案9件が提出され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり可決しました。尚、陳情1件を採択、意見書1件を可決しました。

可決した条例改正など

- ◆ 出雲崎町職員の育児休業等に関する条例の一部改正
急速な少子化に対応するために、社会で次世代子どもを生育する勤務環境を整備するもの。
- ◆ 出雲崎町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
育児又は介護を行う職員の早出遅出勤務の改正。
- ◆ 出雲崎町職員の給与に関する条例の一部改正
給与からの控除について整理するもの。
- ◆ 出雲崎町国民健康保険税条例の一部改正
課税あん分率・軽減額の改正。
- ◆ 出雲崎町国民健康保険条例の一部改正
医療保険制度の安定的運営を図るもの。
- ◆ 出雲崎町営住宅条例の一部改正
耐震不足 (川西2戸) により、町営住宅用途を廃止。
- ◆ 柏崎市刈羽村及び出雲崎町の公の施設の相互利用に関する一部を変更する協定の締結について
復旧しない施設等の削除や名称変更をするもの。

可決した意見書

- ◆ 350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書

提出先

衆議院議長・参議院議長
内閣総理大臣・法務大臣・財務大臣
総務大臣・厚生労働大臣

一般質問

おたずねします

お答えします

良寛様と書道を活用した

町の活性化について



仙海直樹 議員

【質問】 先の県議会で良寛様を活用した観光について質問が出され、県も積極的にPRし、周遊型観光が促進されるよう地域間のコーディネートに努めていきたいと答えています。当町も良寛誕生の地であることを更にPRし、多くの観光客に訪れて頂けるようにしていかねばいけないと考えますが町長の所見をお聞きます。

【答弁】 良寛様は我が町にとりまして何物にもかえがたい最高の財産であり宝であります。町民憲章にも良寛様の心を心として思いやりのある町づくりに取り組んでおり、具体的には良寛様にゆかりのある市町村と連携しながら全国的に発信してまいります。

【質問】 私としては誕生の地というものが一番と考えますし、出雲崎だけに与えられた独自の物でございましてその辺を全面に出してやっていつて頂きたいと思っています。町の行っている「良寛の心書道展」につきましても展示会場を心月輪の方に移して良寛記念館や心月輪辺りの活性化につなげられないものか考えますが如何でしょうか。

【答弁】 大勢の皆さんから目にとめて頂くと言うことで中央公民館ロビーを利用しておりますが、今回行なわれる催し物等に合せ、スペース等も考えていきながら対処してまいります。

【質問】 ここ数年女子高生を中心に書道パフォーマンスや書の甲子園等又はNHK

の書道ドラマでは良寛様の書が取り上げられたりと、書が活気をおびております。

良寛誕生の地として書道イベントや大会等を企画したり、高校書道部合宿の地として出雲崎に来て頂けるよう働きかけ、合せて良寛様を学んで頂き良寛様に関心を持つ世代の底上げにつなげられないものか町長の考えをお伺いします。

【答弁】 新しい試みになります



書道パフォーマンス（天領の里）

心を継承する意味でも大事です。ご提案頂くように簡単にはできない面もあるのですが、識者や書に親しんでいるグループの皆様の意見や大会等の開催はどうあるべきか、しっかり練って町を売り込み、良寛様の、心をご理解頂ける機会を構築していく必要があると思うので検証しながら進めてまいりたいと思います。

宅地の分譲と造成について



田中 元 議員

質問 過去6回にわたり宅地分譲に力を入れ売却しており、若者の定住型町営住宅で後年に売却可能な住宅を建設する計画が石井町地内旧郵便局跡地であります。今後、分譲する住宅団地造成の考えがありますか、住民の中で、町内で宅地が求められず町外に移住される方が継続的にあるようです。住民の流出による人口減も防ぐ意味においても、宅地の造成のお気持がありますか。

区画についてはほぼ完売しております。

基本的には手持ちの区画は必要と考え、景気の状態を見守りながら対処してまいります。つくる以上は優良団地であり、環境がよく価格も手ごろなものでなければと考えております。

質問 延長3.6kmの北国街道の街並が、今空地・空家が多くなっております。その対策として、空地・空家を集合し、宅地の造成は考えられますか。

答弁 優良な団地造成をしたことにより、町民の流出の低下、町外から58%もの転入など大きな効果がありますが、今までの宅地造成した

妻入りの街並景観にもつながると思いますが如何ですか。

答弁 海岸地区については、空地・空家等と既存の住宅等の併合しながらの団地造成は厳しい面があります。価格が手ごろで、分譲できる可能性があると考えれば、先行投資するとか、いろんな対応の仕方があると思いますので、十分考慮してやってまいります。

質問 海岸地区が難しいのであれば駅前地区で次の団地の造成の考えはありますか。その時に住宅に影響のない程度の商店の出店が可能な条件をつける考えは

答弁 大きな区画数の造成でなく随所／＼の状況や購入される人のニーズも見きわめて少しずつ造成、完売したら次の造成をしていきます。

あります。所見をお聞かせ下さい。

定住人口も増えているので基本的には進めるべきと考えます。

又、新しい団地、今までの団地においても店舗を建て、個人的に交渉されて結論が出された場合、町としてそれは了しなければと思います。



空地をどうする？

地域コミュニケーション活動の

支援について



三輪 正 議員

質問 県内各地において、地域コミュニケーション活動の重要性が注目され、地域住民の自立的な活動による地域の活性化が行われております。

私の住む八手地区においては中越沖地震による被害が大きく、他へ移転する世帯も多く、集落によって、従来からの行事等を実施する事が困難となっております。

そのために集落を超えた形で、地区でまとまって住民の助け合い、生きがい活動や地域資源を掘り出して生かすなど「地域力」を高める事が町民の幸せと町の活性化につながります。

柏崎市西山町では別山、

坂田などの地域コミュニティセンターを中心に地域活動が非常に活発で地域の活性化の原動力となっております。

当町でも真の自立の町を築くためにも町の財政支援と助言が必要であります。町当局の考えを伺います。

答弁 以前は町民レクリエーション大会が盛大に行なわれ、現在は八手、西越地区農環センター等が中心となつて、レクリエーション的な行事が行なわれておりますが、かつての時代からは活動が後退しているのが現実ではないかと認識しております。

地域活動は次の自主防災

組織にもつながってくるもので地域力とかコミュニケーションを取り合い、連携することは非常に大切だと思います。

進めてまいりました「町づくり支援事業」も非常に多く活用してもらい喜んでおり、今議会で補正予算を提案しております。

今後とも地域コミュニケーションの強化に意欲的に取り組んでいくものについては、地域力を必要とする時代ですので、町も積極的に支援をしていく考えであります。

自主防災組織の現況と活用について

質問 自主防災組織は災害時には自らの地域は自らの力に対応する住民組織で大変重要な組織であり、町の支援によって整備が進められておりますが、組織状況と今後の呼びかけについて町長の考えを伺います。

答弁 二度の大震災を契機にして自ら防災に関する組織として各地で徐々に結成されております。当町の組織率は全世帯の56%です。

町として100%を目指して、町民の皆さんのご理解



町の防災訓練（井鼻）

をいただけるよう最善の努力をしてまいりたいと思っています。

質問 組織が有効に活用され、地域の防災力向上を図るために必要な活動と支援について、どのように考えておられるか町長の考えを伺います。

答弁 具体的には消火栓などの整備、緊急連絡先の一覧表の作成、防火水槽の点検、清掃の支援や消火栓からの放水訓練の実施、防災講座開催、防災冊子等の編集などを考えております。

政務調査報告

(平成22年6月23日・24日)

長野県 下條村

長野県下條村は飯田市の隣、長野県の南部に位置し人口約4千200人の村です。

主な産業は果樹（リンゴ）・菌茸類の栽培・養豚で、今回の政務調査の目的は、当町が海岸地区に検討している若者向け町営住宅の建設に向けての実態調査です。

下條村は平成9年度から平成18年度までに、若者向けの集合住宅の建設に、国や県の補助金を使わず村費で取りかかりました。理由は補助金を使うと入居者や家賃等が制限され自由に決められないためです。

現在までに鉄筋コンクリート3階建て2LDKの12世帯の集合住宅を9棟、4階建て16世帯の集合住宅を1棟、計10棟を、約



若者向け集合住宅

11億7千万円で建設し、駐車場2台付きで家賃は月3万6千円にて貸し、年間村の家賃収入は総額7千600万円にもなるそうです。そこに他の市町村から若い世代約450人が入居し、暮らしていて、合計特殊出生率が204と国の基準を大きく上回り人口も年々増えています。

村の行っている子育て支援として高校生までの医療費無料や保育料の値下げ、小さな村には少し贅沢な図書館や、音楽芸術ホールの建設を行い、県内でもトップクラスの利用率があるそうです。

当町も若者向け町営住宅の建設について議会でも話し合われていますが、若い世代が出雲崎に定住して頂ける様にするにはどうすればよいか考えていくことが今後の課題と感じました。

下條村のもう一つの取り組みは職員の意識改革です。現在の村長は18年目になりますが、住民アンケートを行い、合併せずに自立の道を歩むために職員の意識改革に取り組む、近くの大型ホームセンターへ全職員を交代で研修に行かせ民間企業の厳しさを学ばせたり、最大59人いた職員を現在35人に減らしたりと、財源の確保に努めています。

地域住民には、材料支給事業として、村道等の小さな補修はコンクリートの材料を村が支給し、地域住民に行って頂き、今までに千100ヶ所以上を実施しており、工事費が通常の $\frac{1}{3}$ に抑えられているそうです。自立の道を選び、職員も住民も頑張っている姿に深く感銘すると共に大変勉強になりました。

伊那市

産直市場グリーンファーム

グリーンファームは長野県伊那市にある産地直送の市場です。

平成6年創業で敷地面積3千300坪、売場面積400坪、従業員数55人の会社です。立地条件は、決して良くないと思いましたが、年間の来客数は約60万人もあります。

千800人の農家の方々が20%の手数料を払い、自由に農産物等の販売ができるシステムになっています。年間100万円前後の収入の農家の方が大半です。

売り場には野菜だけでなく自宅の作業場に眠っている様な昔の農作業道具や、木片あるいは皿や木の葉、石ころ、その土地ならではの蜂の子の佃煮等、「これが商品になるの？」と思う様なものまでも売っていました。

野菜に関しては、ほとんど売れ残りはなく、それが20%の手数料を払ってでも契約する理由だと説明もありました。

近年、食の安全や食育、地産地消などが注目されている中、産直市場の大切さを改めて認識すると共に、地域活性化のヒントになると感じました。

(仙海直樹)



産地直送市場

町民の声

出雲崎の街並みについて

米田

長谷川 貴裕



賑わいのある街のキーポイント

私は出雲崎の海岸地区で生まれ育ち、進学・就職を期に出雲崎を離れていましたが、3年程前にこの町に戻り、驚きました。全国的にもあまり例のない3.6kmにも及ぶ妻入りの街並みです。私が子供の頃は活気にあふれ、子供の声が聞こえ、人の気配が感じられる暖かい街でした。それが現在では、空地や空家が多く、閑散とした街になっていました。少子化の影響も大きいと思います。しかし建築を学んできた私にとつては、とてもシヨックな光景です。なんとかできないものかと思えます。街並みの保存のための助成金も基準が厳しく、使われていないのが現状です。そのような無駄な制度をなくし、観光・定住といった側面から新たなものを考え、実行していかなければならないと思います。そのために、町の建設課・産業観光課などの行政と地域の企業、そして私たち若い世代が協力して考えなければならぬことだと思います。そうすることで地域の住民や観光客などで活気に満ちた、賑わいのある街となってくれればと思います。

表紙の小話



7月9日に行われた議長杯争奪のゲートボール大会。人生の大先輩の皆様と共に議員チームも参加致しました。意外に知られていない事は、ゲートボールは海外からきたスポーツと思われがちですが、実は、昭和22年に北海道在住の鈴木栄治さんが考案した純然たる日本生まれの国産のスポーツなのです。数多くのスポーツの中でも、老若男女を問わず、誰でも気軽に楽しめるスポーツですが、当日は、大先輩の皆様方の緻密な作戦と、高い技術力で圧倒され、あざやかなプレーに翻弄された我々議員団でした。今後共、大先輩の皆様方には、ゲートボールを介し、尚一層、心身と共にご健勝であられます事を、心よりご祈念申し上げます。（宮下孝幸）

あとがき

6月定例会も終わり、6月23日・24日には、若者定住促進策で一躍有名になった、長野県下條村へ政務調査に行ってきました。

我が出雲崎町議会においても、「開かれた議会」への取組みの一端として、これからの議会や議員のあり方を検討する為、5名の議員からなる検討委員会（仮称）を立ち上げ、素案作りに入りました。

町民の皆様と町政の距離を縮め、皆様と共に歩む議会とする為には、いかなる方法や活動が必要なのか？町議会再度の試みですが、それぞれの議員が町民の信託に答えるべく、真剣な議論を展開しています。今後共、町民の皆様には、尚一層のご指導ご鞭撻を頂きます様、心よりお願い致します。

（宮下孝幸）



先号で誤字がありましたこと、深くお詫び申し上げます。